



機能分子合成化学研究室から

生命環境科学研究科応用専攻博士前期課程2回生 丸尾 紗也子

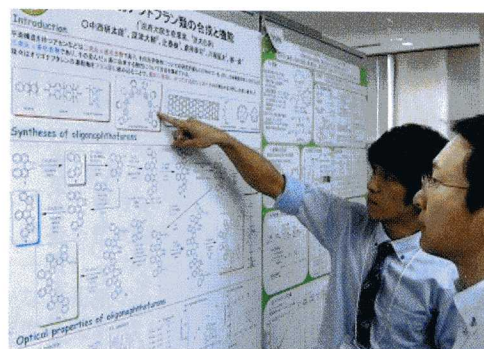
機能分子合成化学研究室が発足してから丸5年が経ちました。当研究室では化学の最大の特徴である「もの作り」を研究の基本に据え、機能性分子や天然有機化合物の合成に挑戦しています。研究は、どのような原理に基づいて分子を設計したらよいか、あるいは、どのような合



成経路を試すべきかを考えることからスタートします。しかし、実際には目指した結果がすぐに出せるというわけではありません。机上の理論が、必ずしもフラスコの中で実現するとは限らないからです。実際に手を動かし、積み重なる失敗データの中で、たったひとつ好条件が見つかるかどうかにかかっていることも少なくありません。したがって私達は、先生とのディスカッションを重ね、常に効率的な時間の使い

方を考えながら、とにかく地道な実験をこつこつと行なっています。また年々学生数が増える中、スペースや器具の不足が実験の妨げとならぬよう、環境整備に力を尽くしてくださる先生方には、非常に感謝しております。

また当研究室では、学会での研究発表を積極的に行っています。研究成果を学外に広く配信することが第一の目的ですが、発表という明確な目標を定期的に設けることで、学生の研究意欲を維持する効果もあると感じています。昨年は4名もの学生とスタッフ1名が、様々な学会において優秀賞などを受賞しました。この快挙は、日々の努力が結実したことの証明であると同時に、公の場で発表する際に必要な度胸と思考力が着実に養われていることを示すものだと思います。



このように、普段は研究室で黙々と実験に従事している私達ですが、学生間や先生との交流の機会も非常に充実しています。祝い事や時期の節目に飲み会を開くのはもちろんのこと、毎年夏には研究室旅行を企画しています。昨年は鳥取に向き、豪雨に見舞われながらも砂丘ではしゃいだり、毎晩バーベキューを楽しんだり、非常に愉快的な旅になりました。研究もとことん頑張るけど、遊ぶ時はとことん遊ぶ(お酒もたくさん飲む...)。このメリハリこそ、意思疎通のとれた明るく楽しい研究生活を営むのに最も重要なことであると考えています。

私は今春より社会へと旅立ちます。3年間の研究生活の中で経験した辛いこと、楽しいことは、確実に私を成長させてくれました。この研究室で鍛えていただいた忍耐力と自立心を強みに、新たな環境でも全力で研究活動に励んでいきたいと思っています。